

7. 綾部市君尾山光明寺の建造物調査

岸 泰子

1. はじめに

歴史学科では、2018年度から京都府立大学地域貢献型特別研究（ACTR）「綾部市君尾山光明寺の総合調査」（研究代表：横内裕人）を実施している。2019年度はACTRからはずれたが、光明寺のある綾部市奥上林地区の熊内久志連長など地元の方々と相談し、独自に事業を継続することとした。今年度は昨年度に引き続き、光明寺において総合調査を実施した。以下、今年度の活動状況を簡単に報告する。

2. 調査の概要

今年度の総合調査では、本堂内部にある寄進札などの調査ならびに大師堂の建造物調査を実施した。あわせて上林小学校での出前授業などもおこなった。

建造物調査は、以下のとおり実施した。

調査日 2019年9月8・9日

調査員 岸泰子（教員）、安部萌花（2回生）

調査内容 調査票作成、実測調査（平面図作成）、写真撮影

大師堂（写真1）の建築的特性を把握するため、現状を確認・記録し、復元考察をおこなった。建物は擬宝珠銘から1896年（明治29）建設であることが判明した。外観・内部ともに改造はほとんどなく、建設当時の形式をよく残している。当寺の明治期の活動がわかる重要な建物であると思われる。

この建造物調査の成果については、本総合調査の報告書に掲載予定である。また、2020年2月9日に奥上林地区の公民館大会で調査成果を報告した。



写真1 光明寺大師堂全景